【実施日】　2021 年 3 月 19 日(金)　天候快晴　参加人数 78 名

そら組のリスタートは今年度最初で最後の担当になった 5 班、春本番到来！と思うような天候に恵まれ「蜜」を避けタイムラグをとり 3 チームに分かれてスタート。

高畑バス停から 15 分程で百毫寺に到着。ここは万葉人が愛した高円山の西麓で志貴皇子の山荘があったと伝えられる。(本来は萩が見頃の時期に訪れる予定だった)

今回は、一株に色とりどりの花をつける天然記念物の五色椿、子福桜、苔に散る落椿を愛で、石仏、宝蔵の文化財を拝覧。山門の北側の開けた所からは、まさに南都一望の景観で陽春の大和路を心静かに堪能できた。

昼食は近くの東山公園で満開の紅枝垂れ桜の下で黙食？その後、奈良市写真美術館へ。入江 泰吉氏、岩波 友紀氏等の作品を鑑賞し奈良町へ下る。途中『頭塔』を見学し解散。

◆『頭塔』ミニ解説

『東大寺要録』の記録では、お水取りを始めた実忠が［土塔］を築いたという記録があり、それが「頭塔」にあたると考えられる。「土塔」の役割は五重の塔などと同じように仏舎利を納める仏塔と考えられる。日本のピラミッドとも言われ、奈良時代の玄昉僧正の首塚と言い伝えられている。

九州に流された藤原 広嗣の怨霊にさらわれ、その体は引き裂かれ、頭が落ちた地が頭塔、眉と目が落ちたのが眉目塚（まめづか大豆山町（まめやま）崇徳寺）腕が落ちたのが肘塚（かいのづか肘塚町）胴が落ちたのが銅塚(水門町とも高畑町ともいう)と言い伝えられている。ここは本来、土で造った土塔であり「土塔」がなまって「頭塔」と呼ばれるようになったと考えられる。

今回は早春の古の都で久々に仲間と再会、心に沁みた一日になり 2021 年度の活動も幕引きとなりました。又、この日は大阪でソメイヨシノが観測史上最速で開花発表されたとニュースになりました。

今年のお花見は、様々なこと思い出す桜になりそうですね。。。

Ａチーム

Ｂチーム

Ｃチーム